北海道奥尻高等学校　令和７年度

シラバス

1

氏名：

科目名	現代の国語	１学年・必修	使用教科書	第一学習社　高等学校　標準現代の国語
		単位数：２単位	使用副教材	第一学習社　高等学校　標準現代の国語 学習課題集

学習目標	（１）実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 （２）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
学習方法	●授業ではプリントを使用します。各自で綴じるためのファイルを用意して下さい。●授業で取り扱う「課題」には、個人でもグループでも、積極的に参加し、最後まできっちりやり抜いて下さい。●各考査では３０点未満の人を対象に、「追加課題」を課すことがあります。●各単元が終わった後に単元のテストをします。●教科書とプリントは毎回必ず持参して下さい。忘れ物をしてしまったときは、必ず朝のうちに職員室に来て申し出て下さい。授業開始時に申し出られても対応できません。●授業中の私語は周囲に迷惑をかける行為です、慎んで下さい。●学習の様子を見て、任意参加の補習授業を実施することがあります。もし、事前に希望がある場合には遠慮せずに申し出て下さい。●授業についていけず不安になった時は、遠慮せずに話して下さい。手立てを一緒に考えましょう。●授業に関する質問はいつでも受け付けていますので、遠慮せずに聞いて下さい。

学習評価	評価の観点		評価の観点の説明
	Ⅰ	知識・技能	・実社会に必要な言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方を身につけている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	「言語としてのピクトグラム」	英語コミュニケーションⅠ	単元終了後、奥尻に ふさわしいピクトグラムを創作し、それを説明する文章を作成してもらいます。単元の内容を踏まえて考案し、発表してみましょう。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	読書の効用について学ぼう（「なぜ本を読むのか」又吉　直樹）	5	・筆者の考える読書の効用について、文章構成をもとに理解し、自分に照らして考えを深める。	・文章を読み込み筆者の主張を理解していく中で、正確な読みができるようになるか、また言葉の特徴や使い方を理解し情報の扱い方を身につけているか、そして身につけたことを他者に話したり書いたりすることで伝えることができるかで評価します。	学びに向かう姿勢
	5	対比を利用して自分の主張を記述する方法について学ぼう（「水の東西」山崎　正和）	7	・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。	・文章を読み込み筆者の主張を理解していく中で、正確な読みができるようになるか、また言葉の特徴や使い方を理解し情報の扱い方を身につけているか、そして身につけたことを他者に話したり書いたりすることで伝えることができるかで評価します。	分析・判断力
	6	言語表現の多様性を学ぼう（「言語としてのピクトグラム」本田弘之）	7	・ピクトグラムが持つ「言語」としての機能を理解し、言語表現の多様性について考えを深める。	・文章を読み込み筆者の主張を理解していく中で、正確な読みができるようになるか、で評価します。 ・また単元の内容を踏まえて奥尻に相応しいピクトグラムを考案し、その持つ意義について説明してもらいます。	つながり力
	7	スピーチの方法を理解し、他人のスピーチを評価する方法を学ぼう（「スピーチで自分を伝える」）	4	・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。	・単元の学習内容を理解した上で、クラスメートの前で伝わりやすく表現できたかで評価します。	コミュニケーション能力
	8	情報をわかりやすく伝える方法を学ぼう（「身近な製品の取扱説明書を作成する」）	3	・情報を的確に説明し相手にわかりやすく説明する方法を理解し、わかりやすい説明を実践できるようになる。	・実際に製品の取り扱い説明書を作成することで、わかりやすい説明になっているかで評価します。	コミュニケーション能力
	9	複数の文書を比べて、必要な情報を読み取ろう（「法律の改正に関わる文章を読み比べる」）	7	・改正前後の法律文を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の文章を関連づけながら理解したことをまとめる。	・読み比べる中で、必要な情報を適切に取り扱い改正前後での違いをわかりやすくまとめることができるかどうかで評価します。	情報活用能力
後期	10	文章の展開を捉え、文章の要旨を捉えよう（「『弱いロボット』の誕生」岡田美智男）	7	・「弱いロボット」の開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。	・文章を読み込み筆者の主張を理解していく中で、正確な読みができるようになるか、また言葉の特徴や使い方を理解し情報の扱い方を身につけているか、そして身につけた事を他者に話したり書いたりすることで伝えることができるかで評価します。	コミュニケーション能力
	11	根拠の示し方や説明の仕方を工夫する方法を学ぼう（「イースター島にはなぜ森がないのか」鷲谷　いづみ）	8	・イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。	・文章を読み込み筆者の主張を理解していく中で、正確な読みができるようになるか、また言葉の特徴や使い方を理解し情報の扱い方を身につけているか、そして身につけたことを他者に話したり書いたりすることで伝えることができるかで評価します。	課題解決能力
	12	人間関係を調整する言葉の役割について学ぼう（「言葉遣いとアイデンティティ」中村　桃子）	7	筆者の考える、人間関係を調整する「言葉」と「言葉遣い」の役割について、具体的事例とともに理解を深める。	・文章を読み込み筆者の主張を理解していく中で、正確な読みができるようになるか、また言葉の特徴や使い方を理解し情報の扱い方を身につけているか、そして身につけたことを他者に話したり書いたりすることで伝えることができるかで評価します。	言語力
	1	相手や場に応じた話し方を学ぼう（「待遇表現」）	4	・敬語表現を意識した言葉遣い、敬語表現が選択される視点を理解し、相手や場に応じた表現が選択できるようにする。	・敬語表現と敬語表現が選択される視点について理解し、その上で場に応じた敬語表現ができるかどうかで評価する。	コミュニケーション能力
	2	自分の意見や考えを論述する方法を学ぼう（「人はなぜ仕事をするのか」内田　樹）	6	・本文で使われている「パス」という言葉の意味を考え、筆者が述べる仕事の本質について考察する。	・文章を読み込み筆者の主張を理解していく中で、正確な読みができるようになるか、また言葉の特徴や使い方を理解し情報の扱い方を身につけているか、そして身につけた事を他者に話したり書いたりすることで伝えることができるかで評価します。	進む力
	3	説得力を意識した表現について学ぼう（「論理的な表現」）	5	・論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について理解し、説得力を意識した表現の仕方について理解する。	・論理的な表現とはどのようなものかを理解し、その上で論理的な話し方ができるかどうかで評価します。	思考・判断・表現力

科目名	言語文化	１学年・必修	使用教科書	第一学習社　高等学校　標準言語文化
		単位数：２単位	使用副教材	『標準言語文化　学習課題集』『読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315 四訂版』 『基礎から解釈へ　新しい古典文法　四訂新版』『基礎から解釈へ　漢文必携五訂版』

学習目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
学習方法	●授業ではプリントを使用します。各自で綴じ込むファイルを用意して下さい。●教科書とプリントは毎回必ず持参して下さい。忘れ物をしてしまったときは、必ず朝のうちに職員室に来て申し出て下さい。●授業で取り扱う「課題」には、個人でもグループでも、積極的に参加し、最後まできっちりやり抜いて下さい。●授業の初めに小テストを行うことがあります。●授業中の私語は周囲に迷惑をかける行為です、慎んで下さい。●各考査では３０点未満の人を対象に、「追加課題」を課すことがあります。●古文の古典文法、漢文の句型など覚えなければならないことは多くありますので、予習復習は必ずしてください。●学習の様子を見て、任意参加の補習授業を実施することがあります。もし、事前に希望がある場合には遠慮せずに申し出て下さい。●授業についていけず不安になった時は、遠慮せずに話して下さい。手立てを一緒に考えましょう。●授業に関する質問はいつでも受け付けていますので、遠慮せずに聞いて下さい。

学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
	Ⅱ	思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	Ⅲ	主体的に学びに向かう態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	和歌と俳諧	音楽Ⅰ	・これまでに作られた童謡、歌謡曲、翻訳曲の中で、和歌に由来する五七調を持つものを調査する。その上で、その歌詞からどのような印象を受けるのか分析する。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	古典特有の表現を理解し、古典の世界に親しもう （古文入門「児のそら寝」）	5	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。	次の観点で評価をします。 ・歴史的仮名遣いや文語文法について理解できているか。 ・現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを読み取っているか。 ・学習の見通しを持って調べたり説明したりしようとしているか。	学びに向かう姿勢
	5	古文における人物造形の面白さを知ろう （古文入門「三文にて歯ニつ」）	7	・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・主として品詞の種類について、文語のきまりを理解する。 ・文の構成単位を理解し、学習の見通しをもって、文を文節や単語に分けようとしている。	次の観点から評価をします。 ・文の構成単位を理解し、文を文節や単語に分けることができているか。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈できているか。 ・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしているか。	言語力
	6	漢文を読むことの意義を知り、漢文を訓読するための基礎知識を身に付けよう （漢文入門 「訓読に親しむ（一）（二）（三）」）	8	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字の働きと意味、再読文字の種類と読み方,を習得する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。	次の観点で評価します。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字の働きと意味、再読文字の種類と読み方を習得しているか。 ・日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしているか。	情報活用能力
	7	漢詩のきまりを理解し、作者の思いを読み取ろう （漢詩の鑑賞 唐詩の世界 「春暁」「静思夜」 「春望」）	3	・口語訳と原文を比較しながら、原文独特のリズム感を味わう。	次の観点で評価します。 ・表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取っているか。 ・漢詩の決まりを理解しているか。 ・粘り強く漢詩を詠み、詠まれた情景や心情を説明しようとしているか。	言語力
	8		3			言語力
	9	小説を読み、セリフや行動から人物像や心情を読み取ろう （小説を読む（一） 「とんかつ」）	8	・話の構成と展開を理解し、せりふや行動から人物像と心情を読み取る。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・叙述を基に人物像や心情を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。	次の観点で評価をします。 ・話の構成と展開を理解しているか。 ・せりふや行動から人物像と心情を読み取る事ができているか。 ・本文中の語句の意味や漢字について理解できているか。	他者理解
後期	10	故事成語を知り、その由来と意味を調べよう （故事成語「矛盾」「蛇足」）	7	・漢文の訓読に 慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。	次の観点で評価します。 ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを理解しているか。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解できているか。 ・故事成語の由来となった話を積極的に読み、分かった内容を工夫してまとめようとしているか。	言語力
	11	随筆を読んで、作者のものの見方・考え方を理解しよう （随筆を読む『枕草子』）	8	・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。 ・主として形容詞・形容動詞の活用ついて、文語のきまりを理解する。 ・「春は、あけぼの」「うつくしきもの」では、時間の経過による言葉の変化について理解する。	次の観点で評価します。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えているか。 ・用言の活用の種類や活用形を理解しているか。 ・作品に表れたものの見方・考え方や美意識を積極的に理解しようとしているか。	情報活用能力
	12	「羅生門」を原作として、演劇におけるシナリオを作ろう （小説を読む（二）「羅生門」）	7	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。	次の観点で評価します。 ・下人の行動や心理を元に場面の展開を捉えているか。 ・老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取っているか。 ・登場人物の行動や韻利を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしているか。	他者理解
	1		4			他者理解
	2	歌物語を読み、取り上げられた和歌とその背景を知ろう （歌物語『伊勢物語』東下り）	6	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。	次の観点で評価します。 ・文語のきまりが理解できているか。 ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解できているか。 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしているか。	完遂力
	3	優れた短歌や俳句を詠み、折句を用いて短歌を作ろう （和歌と俳諧 万葉・古今・新古今 古文を読むためにら　和歌の修辞）	4	和歌の鑑賞の仕方を理解し、古典の和歌を現代の言葉で書き換えてみる。	次の観点で評価します。 ・調べや修辞技法に留意しながら、和歌の鑑賞の仕方を理解できているか。 ・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解できているか。 ・作品に表れている情景や心情を粘り強く読み取り、これまでの学習を活かして和歌を鑑賞しようとしているか。	言語力
通年		古文の文法・活用形、漢文の句型について学習後に小テストを行います。		週に一回、古文の基礎知識を身につけるために授業の最初に小テストを行います。	・小テストの範囲を確認し対策を取りましょう。自分に適した覚え方を周りに聞いたり調べたりして探してみてください。小テストの点数は知識理解の評価に組み入れます。	言語力

科目名	歴史総合	１学年・必修	使用教科書	『歴史総合　近代から現代へ』山川出版社
		単位数：２単位	使用副教材	『歴史総合　近代から現代へ　ノート』山川出版社

学習目標

近現代の歴史をグローバルな視点で学ぶことを通して、歴史的な出来事の背景や影響を分析し、現代社会の問題解決に活かす力を養う

知識・技能　　：世界と日本の歴史をつなげて学び、様々な資料を読み取り、情報をまとめることができる。
思考力・判断力・表現力：過去の出来事を多角的に考え、歴史の意味を自分の言葉で説明することができる。
学びに向かう力・人間性：過去を知り、現代の課題とつなげて考えることができる。日本や世界の文化を大切にできる。

学習方法

・講義形式の授業とグループワーク等を併用して授業を展開します。
・毎回の授業を大切に、真剣に受講してください。講義を聞く姿勢やグループワークへの参加態度次第で知識の定着具合や思考力の伸び幅に大きな差が出ます。
・教科書に出てくる用語は漢字でしっかりと書けるように努力しましょう。
・「暗記」するのではなく物語として捉え、「理解」するよう努めましょう。

学習評価

	評価の観点	評価の観点の趣旨
Ⅰ	知識・技能	近現代の歴史を世界と日本の関係から理解し、定着させている。様々な資料を調べ、情報を適切にまとめることができる。
Ⅱ	思考・判断・表現	近現代の歴史の影響を様々な視点で考察することができる。現在の歴史的な課題を見つけ、その解決策を考え、表現できる。
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	現代社会の課題に関心を持ち、解決に向けた自分の意見を形成しようとしている。世界や日本の歴史に対する理解を深めようとしている。

他教科との関連性

該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
第七章 戦後の国際秩序と日本の改革	家庭基礎	高度経済成長期以降の日本の家族構成について説明し、核家族化の進行や家庭における家父長制度の変遷を理解するとともに歴史的な変化を遂げる過程について自身の仮説を立て、検証する思考力を養う。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushirlety 5.0
前期	4	第１章 結びつく世界	4	1　アジア諸地域の繁栄と日本 2　ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	現代社会の基礎となる文明や国家の成り立ちを調べ、表現する	学びに向かう姿勢
	5／6	第２章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	12	1　ヨーロッパ経済の動向と産業革命 2　アメリカ独立革命とフランス革命 3　１９世紀前半のヨーロッパ 4　１９世紀後半のヨーロッパ 5　１９世紀のアメリカ大陸 6　中国の開港と日本の開国	近代国家を象徴する憲法や法律の成立過程を理解する	分析・判断力
	7／8	第３章 明治維新と日本の立憲体制	6	1　明治維新と諸改革 2　明治初期の対外関係	日本の在り方が大きく変わった原因や要因について自分なりの仮説を立てる	分析・判断力
	9	第４章 帝国主義の展開とアジア	8	1　条約改正と日清戦争 2　帝国主義と列強の展開 3　世界分割と列強の対立 4　日露戦争とその影響	世界に向けて進出する日本と列強諸国の動向を理解し、自分なりにまとめる	コミュニケーション能力
後期	10	第５章 第一次世界大戦と大衆社会	8	1　第一次世界大戦とロシア革命 2　国際平和と安全保障 3　アジア・アフリカ地域の民族運動	戦争によって変化した各国の社会の在り方を理解する	課題解決能力
	11	第６章 経済危機と第二次世界大戦	8	1　世界恐慌の発生と各国の対応 2　ファシズムの台頭 3　日本の恐慌と満州事変 4　日中戦争と国内外の動き 5　第二次世界大戦と太平洋戦争	経済成長から戦争に至った経緯を学び、なぜ戦争に繋がったのか仮説を立てる	思考・判断・表現力
	12	第７章 戦後の国際秩序と日本の改革	8	1　新たな国際秩序と冷戦の始まり 2　占領下の日本と民主化 3　占領政策の転換と日本の独立	戦後の日本社会がどのようにして成長したのかを考え、現在の日本に至るまでの過程をまとめる	学びに向かう姿勢
	1／2	第８章 冷戦と世界経済	10	1　集団防衛体制と核開発 2　米ソ両大国と平和共存 3　西ヨーロッパの経済復興 4　核戦争の恐怖から軍縮へ 5　冷戦構造のゆらぎ	冷戦期における様々な対立を学び、どの分野で対立が起きていたのかを調べて発表する	思考・判断・表現力
	2／3	第９章 グローバル化する世界	6	1　冷戦の終結と国際情勢 2　ソ連の崩壊と経済のグローバル化 3　地域紛争の激化	歴史的事象をもとに、現代社会における問題や課題を解決する方法を提案する	課題解決能力

科目名	公共	１学年・必修	使用教科書	『公共』東京書籍
		単位数：２単位	使用副教材	『公共　ワークノート』東京書籍

学習目標	社会の一員として、よりよい社会をつくるために考え、判断し、行動する力を養う 知識・理解　　：倫理、政治、法、経済などの基礎知識を習得し、社会的課題を分析することができる。 思考力・判断力・表現力：諸資料から必要な情報を収集・整理し、多くの視点から考察し、適切な判断を下し議論することができる。 学びに向かう力・人間性：よりよい社会の実現を目指して、現代の諸課題を協力し合って解決しようとする。
学習方法	・講義形式の授業とグループワーク等を併用して授業を展開します。 ・毎回の授業を大切に、真剣に受講してください。講義を聞く姿勢やグループワークへの参加態度次第で知識の定着具合や思考力の伸び幅に大きな差が出ます。 ・教科書に出てくる用語は漢字でしっかりと書けるように努力しましょう。 ・世界情勢や国内での事件、出来事によって、時事的な内容を授業で扱うことがあります。日頃からメディアに触れ、情報収集に努めましょう。

学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	現代社会の諸課題を捉え、自分の考えを形成するための手掛かりとなる基礎知識を理解している
	Ⅱ	思考・判断・表現	事実に基づいて、よりよい社会の在り方について考え、自分の意見を説明することができる
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	社会参画や合意形成を視野に入れながら、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	メディアと世論	論理国語	メディアのあり方とこれからのメディアとの向き合い方を考察する

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushirlety 5.0
前期	4	第１部第１章 社会の中の自己	4	1　青年期と自己形成の課題 2　自己形成と社会への参画 3　個人として尊重される人間	青年期における精神的発達の特徴や青年期における課題と向き合い、課題解決を試みる	学びに向かう姿勢
	5	第１部第２章 共に生きるための倫理	6	1　功利主義と幸福の原理 2　義務論と公正の原理	様々な視点で状況を判断するための方法を学び、主観的な視点と客観的な視点の両方を認める	コミュニケーション能力
	6	第１部第３章 私たちの民主的な社会	8	1　公共的な空間における協働とは 2　民主主義とは 3　立憲主義とは 4　人権保障の意義と展開	人間の行動規範を理解し、よりよい社会の在り方を考察して提案することができるようになる	学びに向かう姿勢
	7／8	第２部第１章 民主政治と私たち	8	1　私たちの民主政治 2　地方自治のしくみと役割 3　国会のしくみと役割 4　内閣のしくみと役割 5　政治参加と選挙 6　メディアと世論	私たちを取り巻く社会の基礎となる仕組みについて、模擬演習を通して体感しながら学ぶ	課題解決能力
	9	第２部第２章 法の働きと私たち	8	1　市民生活と法 2　多様な契約 3　消費者の権利と責任 4　司法のしくみと役割 5　刑事司法と司法参加の意義	私たちの行動規範となる法の成立過程と運用について理解する	思考・判断・表現力
後期	10／11	第２部第３章 経済社会で生きる私たち	12	1　私たちと経済 2　市場経済のしくみ 3　金融のしくみと働き 4　中央銀行の役割と金融環境の変化 5　財政の働き 6　財政の課題 7　社会保障の考え方 8　社会保障の課題とこれから	現代の経済の仕組みを理解し、私たちの生活にどうかかわっているかを説明することができるようになる	課題解決能力
	11／12	第２部第４章 私たちの職業生活	6	1　多様な職業選択 2　労働者の権利 3　現代の雇用・労働問題	働くことの意義を理解し、将来のキャリア教育に繋がる職業観を形成する	ひらめき力
	12／1／2	第２部第５章 国際社会の中で生きる私たち	12	1　国際連合の役割 2　現代の紛争とその影響 3　平和な国際社会に向けて 4　貿易のしくみ 5　グローバル化と今日の国際経済 6　国際経済の諸課題	国際社会の一員として当事者意識をもち、広い視野で世界を見渡す意識を形成する	思考・判断・表現力
	3	第３部 持続可能な社会づくりに参画するために	6	グループワークによる作業・発表会 （発表内容の精度、振り返り）	獲得した知識・技能を基に、現代社会における課題に気づき、仲間と協働しながら解決策を発見する	思考・判断・表現力

科目名	数学Ⅰ	1学年・必修	使用教科書	『数学Ⅰ Progress』実教出版
		単位数：4単位	使用副教材	『エクセル数学Ⅰ+A　新課程版』実教出版

学習目標

（1）数と式、図形と計量、２次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
（2）命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
（3）数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習方法

〇一斉授業またはグループ学習　※積極的に授業を受けてください。また、予習は個々の判断に任せますが、復習は欠かさないようにしましょう。
〇授業の持ち物
・教科書　・副教材　・ノート

学習評価

	評価の観点	評価の観点の趣旨
Ⅰ	知識・技能	数と式，図形と計量，２次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
Ⅱ	思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

他教科との関連性

該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
数と式	音楽Ⅰ	「ピタゴラスが愛した音の調べ」 古代ギリシャの数学者であるピタゴラスは、三平方の定理を発見したとして広く知られているが、音階（ドレミファソラシド）を最初に発明した人物であることは意外と知られていない。彼は、散歩中に鍛冶屋の近くを通りかかったとき、金槌の音にはきれいに響き合う（＝調和する）ものとそうでないものがあることに気付き、どのような条件で音が調和するのか調べ始めた。緻密な調査の結果、最終的に彼は音が調和するときのある規則性にたどり着く。それから2500年が経った今、私たちも金槌ではなく、モノコードを使ってその規則性を探究してみよう。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4 5	オリエンテーション １章　数と式 １節　式の計算 ２節　実数 ３節　１次不等式	25	・整式とその加法、減法 ・整式の乗法 ・因数分解 ・実数 ・根号を含む式の計算 ・１次不等式 ・絶対値を含む方程式、不等式	・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力
前期	6	２章　集合と論証 １節　集合と論証	20	・集合と要素 ・命題と条件 ・逆、裏、対偶	・前期中間考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力
前期	7 8	３章　２次関数 １節　２次関数とそのグラフ ２節　２次関数の値の変化	25	・関数とグラフ ・２次関数のグラフ ・２次関数の最大、最小 ・２次関数の決定 ・２次方程式と判別式 ・２次関数のグラフと２次方程式 ・２次関数のグラフと２次不等式	・前期期末考査 【知】【思】 ・後期中間考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力
前期	9	３節　２次方程式と２次不等式	25			
後期	10 11					
後期	12 1	４章　図形と計量 １節　三角比 ２節　三角比と図形の計量	25	・三角比 ・三角比の拡張 ・正弦定理と余弦定理 ・平面図形の計量 ・空間図形の計量	・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力
後期	2 3	５章　データの分析 １節　データの分析	20	・度数分布表とヒストグラム ・代表値 ・四分位数と四分位範囲 ・外れ値 ・分散と標準偏差 ・データの相関 ・仮説検定の考え方 ・データの収集と分析	・学年末考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力

科目名	数学Ａ	1学年・必修	使用教科書	『数学A Progress』実教出版
		単位数：2単位	使用副教材	『エクセル数学Ⅰ+A　新課程版』実教出版

学習目標	（1）図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 （2）図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。 （3）数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
学習方法	○一斉授業またはグループ学習　※積極的に授業を受けてください。また、予習は個々の判断に任せますが、復習は欠かさないようにしましょう。 ○授業の持ち物 ・教科書　・副教材　・ノート

学習評価		評価の観点	評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に理解したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	図形の構成要素間などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	確率	保健	「ＰＣＲ検査の精度が0.1％上がった！コレってすごいことなの？」 ＰＣＲ検査の精度が0.1％上がることで、私たちの生活にはどのくらいのメリットがあるのか条件付確率を用いて考えてみよう。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4 5	オリエンテーション 1章　場合の数と確率 1節　場合の数	15	・集合と要素 ・集合の要素の個数 ・場合の数 ・順列 ・組合せ	・前期中間考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力
前期	6 7 8	1章　場合の数と確率 2節　確率	15	・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行とその確率 ・反復試行とその確率 ・条件付き確率と乗法定理 ・期待値	・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力
前期	9	2章　図形の性質 1節　三角形の性質	10	・三角形と線分の比 ・三角形の重心、内心、外心、垂心 ・メネラウスの定理とチェバの定理	・前期期末考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力
前期 後期	9 10 11	2章　図形の性質 2節　円の性質 3節　作図 4節　空間図形	15	・円に内接する四角形 ・円の接線と弦の作る角 ・方べきの定理 ・2つの円 ・作図 ・空間における直線と平面 ・多面体	・後期中間考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力
後期	12 1 2	3章　数学と人間の活動 1節　数と人間の活動 2節　図形と人間の活動	10	・記数法 ・約数と倍数 ・整数の割り算と商、余り ・ユークリッドの互除法と不定方程式	・学年末考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力
後期	3	3章　数学と人間の活動 3節　遊びの中の数学	5	・カプレカ数の不思議 ・にせがねの問題 ・迷路パズル	・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力

科目名	化学基礎	１学年・必修	使用教科書	『新編　化学基礎』東京書籍
		単位数：２単位	使用副教材	『改訂版　フォトサイエンス　化学図録』数研出版 『新課程　ニューアチーブ　化学基礎』東京書籍

学習目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）　日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 （2）　観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 （3）　物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
学習方法	授業は、ワークシートを活用しながら行います。ワークシートや問題を解くうえで生徒間での教えあいを大事にしてください。また、疑問があれば質問したり、友達と話し合ったりしながら解決しましょう。 【授業に持参する物】　□教科書　　□図録　　□問題集　　□授業プリント ※　忘れ物は授業前に必ず伝えてください。　　※　授業前には必ず必要な物を机上に準備し、座席に着席してください。

学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、科学的に探究している。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	化学が開く未来	地理	世界各地で採れる鉱物は、どのように世界に循環しているのか考える。また、どのような工程を経て私たちの元に来ているのかを調べる。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushirlety 5.0
前期	4	オリエンテーション 1編1章　化学とは何か 1編2章　物質の成分と構成元素	5	身の周りの物質を、その特徴に基づいて分類します。また、混合物に含まれる物質を分離する操作について学びます。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付ける。また、粒子の熱運動と温度との関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解する。	学びに向かう姿勢
	5	2編1章　原子の構造と元素の周期表	6	物質の構成単位である原子について、電子配置を考えます。また、元素の特徴を周期表と関連づけながら理解します。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。また、原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。	情報収集力
	6	2編2章　化学結合	7	原子がイオンに変化する理由を、電子配置とエネルギーという視点から考えます。また、イオンどうしの結合からなる物質について、理解を深めます。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解すること。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。	思考・判断・表現力
	7	2編2章　化学結合	7	非金属原子どうしが結合して形成される分子について、電子配置の視点から考えます。また、分子間にはたらく引力について、電気力に基づいて学びます。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 共有結合を電子配置と関連付けて理解する。また、分子からなる物質の性質を理解する。	情報活用能力
	8	2編2章　化学結合	4	金属原子どうしの結合について理解し、その特徴から金属の利用例について整理します。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 金属の性質及び金属結合を理解する。	情報収集力
	9	3編1章　物質量と化学反応式	6	原子・分子のような小さな粒子について、質量の表し方を学びます。また、粒子の数を表す物質量について、物質の質量・気体の体積・粒子の個数との関係性を見いだします。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。	思考・判断・表現力
後期	10	3編1章　物質量と化学反応式	8	物質量を用いて濃度を表す方法について学びます。また、化学反応式で化学反応を表現し、物質量との関係性を見いだします。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解する。	ひらめき力
	11	3編2章　酸と塩基	7	中学校で学んだ酸・アルカリの考え方をさらに深め、酸・塩基の定義について学びます。また、酸・塩基の強さを表す指標であるpHを求めていきます。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 酸・塩基の強さを表す指標であるpHを求めることができる。	探究心
	12	3編2章　酸と塩基	7	酸と塩基が反応した際の関係性に基づいて、中和反応によって酸または塩基の濃度を求める手法について考えます。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	思考・判断・表現力
	1／2	3編3章　酸化還元反応	9	酸化還元反応について、酸化・還元を判断する手法として電子のやり取りの視点から酸化数を学びます。また、酸化還元反応の化学反応を表します。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 酸化と還元が電子の授受によることを理解する。	情報収集力
	3	3編終章　化学が拓く世界	4	身の周りの生活の中で化学が利用されているものについて、その理由に基づいて考えます。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト □グループワーク　□提出物　など 【学習目標】 日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解する。	当事者意識

科目名	生物基礎	１学年・必修	使用教科書	『高校生物基礎』実教出版
		単位数：２単位	使用副教材	『改訂版　リードLightノート生物基礎』数研出版 『二訂版　ニューステージ　生物図表』浜島書店

学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（1）　日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
（2）　観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
（3）　生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

学習方法

授業は生徒と教員とでつくりあげていくものです。自ら進んで課題に挑戦し、些細な疑問、質問、意見等は遠慮せずに発して下さい。ただし、私語は厳禁です。その日に習った内容に関しては、必ずその日のうちに教科書を一読し、ワークなどを用いて復習しましょう。中学校までに学習してきた内容もありますが、高校では内容がより深まりますので、一度の授業だけで定着や理解が深まることは難しいです。また、授業では基礎的・基本的な内容を扱いますので、より深く学習したい人は図説やワーク等を各自家庭学習に用いてかまいません。
【授業に持参する物】　□教科書　　□ワーク　　□図表（教室にロッカーに入れておいて大丈夫です。）
※　忘れ物は授業前に必ず伝えてください。　　※　授業前には必ず必要な物を机上に準備し、座席に着席すること。

学習評価

	評価の観点	評価の観点の趣旨
Ⅰ	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
Ⅱ	思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

他教科との関連性

該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
生物の体内環境の維持	体育	自律神経やホルモンのはたらきについて学び、運動時により良いパフォーマンスを発揮するためには、どのような準備が必要になるかを考える。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushirlety 5.0
前期	4	生物の多様性と共通性	6	生物には多様な種が存在するが、そこには共通の特徴もみられることから、生物とは何なのかということを学びます。	【評価方法】 ・授業プリント　・小テスト ・グループワーク　・レポートなど 【学習目標】 ・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだし、また、生物の共通性と起源の共有を関連付けられる。	探究心
前期	5	生物とエネルギー	8	生体内のエネルギーはどのようにして生み出され利用されているのか、またそれに関わる物質について学びます。	【評価方法】 ・授業プリント　・定期テストと小テスト ・グループワーク　・レポートなど 【学習目標】 ・生物とエネルギーに関する資料に基づいて，生命活動にエネルギーが必要であることや、光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けられる。	学びに向かう姿勢
前期	6	遺伝情報とDNA	8	DNAの構造やはたらきについて学びます。	【評価方法】 ・授業プリント　・小テスト ・グループワーク　・レポートなど 【学習目標】 ・遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を見いだし、塩基の相補性とDNAの複製を関連付けられる。	課題解決能力
前期	7	遺伝情報とタンパク質	5	遺伝情報から生体が構成されていくメカニズムを学びます。	【評価方法】 ・授業プリント　・小テスト ・グループワーク　・レポートなど 【学習目標】 ・遺伝情報の発現に関して、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだすことができる。	思考・判断・表現力
前期	8	体内環境と情報伝達	12	体内環境を維持する仕組みや関連する物質について学びます。日常生活における場面ごとの体の反応について考え、学習内容との関連を確認します。	【評価方法】 ・授業プリント　・定期テストと小テスト ・グループワーク　・レポートなど 【学習目標】 ・体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだすことができる。 ・体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだすことができる。また、体内環境の維持を自律神経と関連付けられる。	ひらめき力
前期	9					コミュニケーション能力
後期	10	免疫のはたらき	14	体内に侵入する菌やウイルス等の異物に対し、体がどのような反応を起こすのかを学びます。また免疫機能の異常や身の回りの感染症などについても学習します。	【評価方法】 ・授業プリント　・定期テストと小テスト ・グループワーク　・レポートなど 【学習目標】 ・免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだすことができる。	思考・判断・表現力
後期	11					分析・判断力
後期	12	植生と遷移	8	森林が形成されるまでの過程や森林形成に必要な条件を学びます。またどのような地域にどのような植生が形成されるかを学びます。	【評価方法】 ・授業プリント　・小テスト ・グループワーク　・レポートなど 【学習目標】 ・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだすことができる。また、植生の遷移をバイオームと関連付けられる。	思考・判断・表現力
後期	1					分析・判断力
後期	2	生態系と生物の多様性	9	生態系における各生物の役割や、復元力について学び、身の回りの生態系を保全するために必要な取り組み等を学びます。	【評価方法】 ・授業プリント　・定期テストと小テスト ・グループワーク　・レポートなど 【学習目標】 ・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだすことができる。また、生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けられる。 ・生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的かく乱を関連付けられる。また、生態系の保全の重要性を認識できる。	当事者意識
後期	3					探究心

科目名	体育	１学年・必修	使用教科書	なし
		単位数：２単位	使用副教材	なし

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 （２）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 （３）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
学習方法	（１）授業前の準備を速やかに行い、チャイムが鳴る前までに必要なものを用意し整列すること。 （２）授業中は、常に危機管理意識をもつこと。 （３）授業中は、自分のみならず他者の健康・安全を確保すること。 （４）授業後の片づけは速やかに行い、次時の授業に遅れないようにすること。 （５）持ち物は、ジャージ(柔道着)、筆記用具である。単元により変更があるため体育委員は確認に来ること。 ※ 忘れ物があった場合は、できるだけ早めに伝えに来ること。遅い場合は対応できません。

学習評価	評価の観点		評価の観点の説明
	Ⅰ	知識・技能	（１）運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解している。 （２）上記（１）の技能を身に付けている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	（１）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断している。 （２）自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	（１）生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとしている。 （２）健康・安全を確保している。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	柔道	歴史総合	嘉納治五郎の人生を紐解いていく中で、柔道ができた背景や「自他共栄」「精力善養」について理解し、授業での実践に活かす。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	オリエンテーション	1	体育の授業の流れや評価方法を理解し、１年間の授業の見通しを持つ。		プランニング能力
	4	集団行動	2	安全で能率的な集団の形成のため、整列・集合・方向転換・列の増減を身に付ける。	評価方法 ・観察・出席 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。	思いやり
	4	ニュースポーツ	7	他国の伝統的・民族的スポーツや、20世紀後半に考案された現代的スポーツに触れ、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身に付ける。	評価方法 ・観察・出席 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	探究心
	5 6	バレーボール	7	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開する。	評価方法 ・観察・出席・技能テスト 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	チーム力
	6 7	バスケットボール	7	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開する。	評価方法 ・観察・出席・技能テスト 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	チーム力
	7 8	水泳	6	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、浮く、呼吸をする、進むなどの組み合わせによって成立していることを理解し、効率的に泳ぐ。	評価方法 ・観察・学習カード・出席 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	完遂力
後期	8 9	陸上 （長距離） （走り高跳び）	10	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身に付ける。また、体力の高め方を理解し、自己に適した運動計画を立てる。	評価方法 ・観察・学習カード・出席 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	完遂力
	10 11	バドミントン	8	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開する。	評価方法 ・観察・出席・技能テスト 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	分析・判断力
	12	柔道	3	伝統的な考え方、技の名称、見取り稽古の仕方などを理解し、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開する。	評価方法 ・観察・出席・技能テスト 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	当事者意識
	1 2	スキー	9	スキーを通じて奥尻の自然に親しみを持つ、スキーの基礎的な技術の向上を目指し、生涯スポーツへの足がかりとする。	評価方法 ・観察・出席 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	チャレンジ精神
	3	体育理論	10	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。 スポーツへの社会の関心や期待が高まることで生じる課題について理解する。	学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	プランニング能力

科目名	保健	１学年・必修	使用教科書	現代高等保健体育
		単位数：１単位	使用副教材	

学習目標	保健の味方・考え方を働かせ、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けようとする。 （２）健康についての自他や社会問題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 （３）生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
学習方法	基本的には講義形式で行うがグループワークや調べ学習等テーマによって学習形態は適宜変更する。 ・授業中は他と協同し、積極的に対話する授業態度が求められる。 ・持ち物は教科書、ノート、筆記用具とする。

学習評価	評価の観点		評価の観点の説明
	Ⅰ	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	現代の感染症	化学基礎	保健においては炭酸水素ナトリウムをHIVウイルスに見立て、性感染症の感染メカニズムや感染のリスクを疑似体験する。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Ciusshiriety 5.0
前期	4	オリエンテーション 現代社会と健康	3	私たちの健康の姿と成り立ち 私たちの健康のすがた	・様々な健康の考え方について例を挙げて説明できる。 ・我が国の健康水準の変化とその背景について説明できる。	情報活用能力
	5	現代社会と健康	3	生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・がんの種類や原因について説明できる。	当事者意識
	6	現代社会と健康	3	がんの治療と回復 運動と健康	・主ながんの治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・健康と運動の関係について説明できる。	自己管理能力
	7	現代社会と健康	3	食事と健康 休養・睡眠と健康	・食事と健康の関係について説明できる。 ・適切な休養の取り方について説明できる。	デザイン力
	8	現代社会と健康	3	喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 ・飲酒における健康への短期的、長期的な影響を説明できる。 ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。	分析・判断力
	9	現代社会と健康	3	精神疾患と健康 精神疾患の予防 精神疾患からの回復	・精神疾患の例をあげ、発病の原因と主な症状について説明できる。 ・精神疾患を予防する方法について説明できる。	感情コントロール力
後期	10	現代社会と健康	3	現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ・感染症の予防策について３原則から例をあげて説明できる。 ・性感染症、エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。	発信力
	11	現代社会と健康	3	健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり	・意思決定、行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。	プランニング能力
	12	安全な社会生活	3	事故の現状と発生要因 安全な社会の形成	・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。	当事者意識
	1	安全な社会生活	4	交通における安全 応急手当の意義とその基本	・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ・応急手当の意義について説明できる。	当事者意識
	2 3	安全な社会生活	4	日常的な応急手当 心肺蘇生法	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。	チャレンジ精神

科目名	音楽Ⅰ	１学年・必修	使用教科書	『MOUSA１』教育芸術社
		単位数：２単位	使用副教材	『New Recorder Library Basic Lesson & Ensemble』教育出版

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 （2）自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 （3）主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
学習方法	1　楽譜、ワークシートなどを多く配付します。配付物を整理するために、専用のファイルを用意してください。 2　音楽室にある机や椅子などの備品、リコーダーなどの楽器の取り扱いには、十分注意をしてください。 3　授業に使用する持ち物を忘れた場合は、必ず朝のうちに申し出てください。授業開始直前・授業中では対応できません。 4　歌唱や器楽の演奏実技だけではなく、思いや意図を持って表現する力、積極的に発信する力を重視します。 5　音楽経験等によって得意不得意はあると思いますが、積極的に音楽の活動に取り組んでください。

学習評価	評価の観点	評価の観点の趣旨
	Ⅰ　知識・技能	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ②自己のイメージを持って創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	Ⅱ　思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように音楽で表現するかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
	Ⅲ　主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	ミライイロドル！DTM	総合的な探究の時間	・実社会や実生活と自己の関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ・地域社会や学校生活との関わりについて、音楽の視点から探究を進めることによって、奥尻パブリシティ本部や町おこしワークショップでの課題解決学習に関連付ける。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	オリエンテーション	2	【歌唱】音楽Ⅰでの学習内容や学習方法について確認するとともに、奥尻高校の一員として「校歌」を歌えるようになる。	校歌の存在意義について学習したり、実際に歌ったりするなかで、仲間とともに主体的に取り組んでいるかについて、ワークシートや取り組みの様子で評価します。	学びに向かう姿勢
		動物の謝肉祭	3	【鑑賞】組曲《動物の謝肉祭》を、それぞれの動物を表現するために音楽の要素がどのように関わっているか考えて鑑賞する。	組曲《動物の謝肉祭》は既存の曲のフレーズのパロディーをはじめとするユニークな表現が多数盛り込まれた作品です。全14曲の中から自分の気に入った「動物」を選び、その音楽の良さや特徴についてワークシートにまとめた内容をもとに評価します。	言語力
	5	リズムノヒミツ ～音？音楽？～	7	【創作】表現したいイメージについてグループで話し合い、全身を使ったリズム曲を創作する。	自ら進んで身体を使って音を鳴らしたり、リズム遊びに取り組んでいるかを評価します。また、仲間とともによりよいパフォーマンスを考えようとしているかについてもワークシートをもとに評価します。	コミュニケーション能力
	6	Cantiamo Tutti!	7	【歌唱】外国語歌曲を音楽を分析して考えた表現を伴って、言葉の発音を大切にした良い歌声で歌唱する。	この授業では、各国の歌曲について曲の雰囲気と音楽、歌詞の関わりや、発音など言葉の特性と発声法との関わりについて、理解しているか、ワークシートでの記述を中心に評価します。また、歌曲を歌うにあたって豊かな響きをもった声で表現しているかについて、取り組みの様子と最終発表で評価します。	感受性
	7/8	響け！音楽の架け橋	6	【鑑賞】世界の様々な民族による歌や楽器がどのように関わり合っているか、体験や調査、聴いたことをもとにまとめる。	世界の諸民族の音楽について、表現の共通性や固有性、社会や文化との関わり等の観点からまとめたインフォグラフィックの内容をもとに評価します。	他者理解
	9	ミライイロドル！ DTM	6	【創作】身近な音楽（サウンド・ロゴやBGM、通知音）の成り立ちを学び、生活や社会に彩りを添える音楽を創作する。	身のまわりの音や音楽についての学習に、興味・関心を持って取り組んでいるか、授業の様子やワークシートで評価します。また、音楽を創作する中で、アイデアを積極的に出したり、粘り強く取り組んだりしているかについて、取り組みの様子を中心に評価を行います。	デザイン力
後期	10	WHAT IS ART？	5	【鑑賞】オペラやミュージカル、能や歌舞伎など世界の舞台芸術を比較しながら聴いて、それぞれのよさについてまとめる。	各舞台芸術の音楽表現の特徴について、楽器の音色やリズム、速度、旋律、強弱などをキーワードとして味わいながら聞いているかについて、ワークシートをもとに評価します。	情報収集力
	11	リコーダークエスト	8	【器楽】自分のレベルに合わせた課題に取り組みながら、身に付けてきたリコーダーの奏法を生かして演奏する。	中学校までのリコーダーの知識・技能を生かして、ペア・グループでのリコーダー２重奏に挑戦します。合奏や個人練習の中で、課題を明確にしながら粘り強く、積極的に取り組んでいるかを評価します。技術面で困っている場合は、個別で対応しますので、随時相談してください。	思考・判断・表現力
	11/12	最終発表会に 向けて	7	【歌唱・器楽・創作】これまでの学習を生かして、最終発表会に向け聴衆を感動させるためのコンサートプログラムを検討し、必要な技能を身に付ける。	１月の最終発表会に向けて、発表内容を考え練習します。内容は皆さん次第。クラスで力を合わせていい演奏になるように頑張りましょう。 【過去の演奏プラン】 DTM成果物代表者発表、ボディーパーカッション、混声合唱など	プランニング能力
	1	最終発表会	5	【歌唱・器楽・創作】最終発表会でこれまでの学習を生かした演奏発表を行う。	これまでの集大成として、素晴らしい演奏を期待しています。	完遂力
	2	さくら変奏曲 ～響き合う箏の調べ～	7	【器楽・創作】様々な楽器の音色を生かした表現について学んだことを生かして「桜」のイメージを箏で自由に表現し、「さくら」の前奏を創作する。	桜の情景や様子について、箏で表現するためにどのような奏法で工夫するのか、イメージとのつながりについて具体的に意図を持っているかについて、取り組みの様子で評価します。また、鑑賞を通して、それぞれの楽曲の特徴や共通点について考えているかについて、ワークシートを中心に評価します。	チャレンジ精神
	3	１年の総まとめ！ 心の輪・合唱	7	【歌唱】１年間の学びを生かして曲に対するイメージと表現のアイデアをクラスで話し合って合唱する。	合唱を通して、仲間とのハーモニーを意識しながら表現しようとしているか、豊かな響きを実現するためにどのように歌うかについて考えを巡らせて取り組んでいるか、取り組みの様子や最終発表の成果を中心に評価します。	チーム力

科目名	英語コミュニケーションⅠ	1学年・必修	使用教科書	『VISTA English Communication Ⅰ』（三省堂）
		単位数：3単位	使用副教材	『ワードナビ英単語・熟語 4500』（啓林館） 『Listening Scope Primary』（いいずな書店）

学習目標	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、 1　必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2　必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3　基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 4　基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 5　基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。
学習方法	・基本的にAll Englishで授業を行います。 ・英語は自分で考えながら話して、書いて、読んで、聞くことで、学ぶことができます。たくさん間違えて、たくさん学びましょう。 ・文法力は英語を使う上での基盤となります。スタディサプリ等で基本を学び、何回も「使う」過程で確実に身に付けましょう。 ・発表する際は、原稿を丸暗記するのではなく、話す内容を理解し、流れや要点を押さえて自分の言葉で発表できるよう意識しましょう。 ・スタディサプリ等を用いて、自主的に学習する習慣を身に付けましょう。英語にたくさん触れることが習得の鍵です。

学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
	Ⅲ	主体的に学びに向かう態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や構造する学習活動の例（道徳授業を行う場合はその内容）
	L.4 Pictograms	現代の国語	「現代の国語」の中で作成したオリジナルのピクトグラムについて、英語でも紹介文を書いて発表することによって、英語と日本語の文の構造の違いや論理構造の違いを知る。また、ピクトグラムのようなnon-varbal（言語では無い）コミュニケーション方法について、海外での役割や日本との違いについて調べたり考えたりする。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	1. 自己紹介・シラバスの確認 2. 習熟度クラス分けテスト 3. Lesson 1Colors of Spring	1 1 3	1. 自己紹介を通してクラスメイトのことを知る。 2. 自分の習熟度を確認し、目標設定とそこに向かう道筋を考える。 3. be動詞、一般動詞	1. 自分を表現する語彙をまとめておきましょう。 2. 英語学習の長期目標と短期目標を定めましょう。 3. be 動詞や一般動詞を理解し、活用しよう。	グロースマインドセット
	5	1. Lesson 2 Dick Bruna 2. Lesson 3 Interesting Sports	6 7	1. 人物を紹介することができる。 2. 過去の偉人を過去形を使って説明できる。 3. 相手の知らないスポーツを紹介することができる。	自分にとって印象深い人をプレゼンテーションすることができる。受動態を理解し、活用することができる。 スポーツについて説明する機会を設けますので、それを表現するための語彙や表現を整理しておきましょう。文法を理解して、表現につなげましょう。	他者理解
	6	Lesson 4 Pictograms	13	1. ピクトグラムの役割を助動詞や動名詞を活用して説明することができる。 2. 国語で作成したオリジナルピクトグラムについて英語で説明することができる。	ピクトグラムを創作し、共有する機会を設けますので、それを表現するための語彙や表現を整理しておきましょう。	デザイン力
	7	Lesson 5 We Are part of Nature	9	1. 不定詞等を使用して、高校生活の中でやりたいこととその目的について話すことができる。 2. インタビューの基本的なスキルを学び、英語でインタビューをすることができる。	インタビューをする機会を設けますので、それを表現するための語彙や表現を整理しておきましょう。文法を理解して、表現につなげましょう。	傾聴力
	8 9	What I learned from Scuba diving and Okushiri Publicity division	13	奥尻高校に入学して半年が経とうとしている。今の気持ちや総合的な探究の時間で学習したことを英語でまとめることができる。	まとまった英語を書く時間を設けますので、それを表現するための語彙や表現を整理しておきましょう。文法を理解して、表現につなげましょう。	発信力
後期	10	Lesson 6 Machu Picchu Lesson 7 Artificial Intelligence	12	1. 現在完了を用いて、自分の経験や継続してやっていることについて、クラスメイトと話すことができる。 2. お気に入りの世界遺産のプレゼンテーションを行うことができる。 3. AIについて自分の意見を説得力ある理由とともに述べることができる。	プレゼンテーションをする機会を設けますので、それを表現するための語彙や表現を整理しておきましょう。文法を理解して、表現につなげましょう。 AIについて自分の意見を述べたり、書いたりする機会を設けますので、それを表現するための語彙や表現を整理しておきましょう。文法を理解して、表現につなげましょう。	情報活用能力
	11	Lesson 8 Is There a Santa Claus?	12	1. サンタクロースについて自分の経験を重ね合わせながら、自分の意見を説得力ある理由とともに述べることができる。 2. 関係代名詞を活用して、人や物を詳細に説明できる。 3. クリスマスの起源や海外でのクリスマスの過ごし方などを知り、日本との違いなどについて意見交換ができる。	サンタクロース等実際に存在するかどうか判断が分かれるものについて、自身の立場を表明する機会を設けますので、それを表現するための語彙や表現を整理しておきましょう。日本でも行われている海外発祥のイベントについて理解を深め、他国の文化を尊重する態度を養いましょう。	思考・判断・表現力
	12	Lesson 9 Kid's Guernica Take a Break! 3 世界の名物料理	12	1. ゲルニカの社会的意義を理解し、またそれに関わる自分の意見を説得力ある理由とともに述べることができる。 2. 関係副詞を活用して、場所や状況を詳細に説明できる。 3. 興味のある外国の料理について、その特徴やレシピなどをクラスメイトに分かりやすく説明することができる。	芸術作品が持つ意義について、クラスメイトと意見交換する機会を設けますので、それを表現するための語彙や表現を整理しておきましょう。また、外国の料理についてプレゼンテーションを行う機会を設けますので、写真なども効果的に使って表現しましょう。	感受性
	1	Lesson 10 Ethical fashion	6	1. エシカルファッションについて理解し、その背後にある社会問題等について考え、自分の意見を説得力ある理由とともに述べることができる。 2. 比較の表現を使って、図表やグラフの情報を的確に伝え合うことができる。	図表やグラフを用いてプレゼンテーションをする機会を設けますので、それを表現するための語彙や表現を整理しておきましょう。文法を理解して、表現につなげましょう。	分析・判断力
	2	ライティング演習	5	一定の題について、「つながり」と「まとまり」のある英文を書くことができる。抽象と具体、接続詞の使い方などを理解し、自身のライティング能力を向上させる。	パラグラフライティングをする機会を設けますので、論理の流れを言葉で表現できるように語彙や表現を整理しておきましょう。文法を理解して、表現につなげましょう。	言語力
	3	時事英語購読	5	海外のニュースやメールマガジンを読むことを通じて、国際理解感覚を涵養し、世界に興味を持つことができる。	まとまった英語を読む機会を設けますので、語彙や論理構造に気を付けて読めるように整理しておきましょう。	探究心
通年帯活動	4～3	ワードナビ英単語・熟語4500、Listening Scope Primary	各授業10分程度	1. 音読や小テストを通じて、全技能に通じる語彙力を鍛える。 2. 英検３級～準２級レベルの音声を聞き、内容を把握できる。	【評価方法】 語彙力については年間計画表に記載されたスケジュールで行われる小テストに向けて満点をとろう。 スピーキングテストでは評価の観点を意識して取り組もう。 【学習のポイント】 日常的に英語を使うことによって語彙を身につけていきましょう。使うことによって身に付きます。 英検３級～準２級レベルの音声の内容把握、書き取り、音読を行う。	自己管理能力
	4～3	Small Talk	各授業3分程度	与えられた題について自分の意見を述べたり、役割に応じてロールプレイを行うことで、ディベートにつながる基礎力を養う。 絵を描写したり、説明をしたり、自分の意見を簡単な英語で述べることができる。	【評価方法】 毎回は記録に残す評価は行わないが、定期的に行うスピーキングテストで身についた能力を測ります。 【学習のポイント】 発表の後は、振り返りの時間をとることがあります。言えたこと、言いたかったけど言えなかったことをメモし、調べることで少しずつ話せる英語が増えていきます。	コミュニケーション能力

科目名	情報Ⅰ	1学年・必修	使用教科書	『高等学校　情報Ⅰ』　数研出版
		単位数：2単位	使用副教材	『高等学校　情報Ⅰ　サポートノート』　数研出版

学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（1）効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人の関わりについて理解を深められるようにする。
（2）様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
（3）情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

学習方法

○基本的には講義形式にて授業を行うが、単元の内容によって実習やグループワーク等を行う。
○持ち物
　教科書、副教材、ファイル、筆記用具

学習評価

	評価の観点	評価の観点の趣旨
Ⅰ	知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人の関りについて理解している。
Ⅱ	思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

他教科との関連性

該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
データの活用	体育	「体力テストにおけるデータの活用、分析」 体育の授業で行っている体力テストをExcel等を用いて、データ化し、平均や標準偏差などを求め分析を行う。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	・オリエンテーション	1	・オリエンテーション（奥尻高校の機器の使用方法等の説明）	オリエンテーションにおいて、奥尻高校のパソコン室やタブレット使用方法を確認するとともに情報Ⅰの学習内容や評価方法を理解し、見通しをもって学習に取り組むことができる。 ・ワークシート　・グループ活動	学びに向かう姿勢
	4／5	・第1編　情報社会の問題解決 第1章　情報とメディア 第2章　情報社会における法とセキュリティ 第3章　情報技術が社会に及ぼす影響	12	・教科書 ・ワーク ・実技（タイピング練習、Word、Excel、PowerPoint等officeソフトの操作、Scratch・HTML・CSS、JavaScript、Python等プログラミング言語の利用など）	情報やメディアの特性を踏まえ、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する学習活動を通して、問題を発見・解決する方法を身に付けるとともに、情報技術が人や社会に果たす役割と影響、情報モラルなどについて理解するようにし、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決し、望ましい情報社会の構築に寄与する力を養うことができる。 ・単元テスト　・ワークシート ・グループ活動	情報活用能力
	6	・第2編　コミュニケーションと情報デザイン 第1章　情報のデジタル表現	8		目的や情報に応じて受け手にわかりやすく情報を伝える活動を通して、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解するようにし、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を身に付けるようにするとともに、コンテンツを表現し、評価し改善する力を養うことができる。 ・単元テスト　・ワークシート ・プレゼンテーション　・グループ活動	デザイン力
	7／8	・第2編　コミュニケーションと情報デザイン 第2章　コミュニケーション手段の発展と特徴 第3章　情報デザイン 第4章　プレゼンテーション	10			デザイン力
	9	・第3編　コンピュータとプログラミング 第1章　コンピュータのしくみ	4		問題解決にコンピュータや外部装置を活用する活動を通して情報の科学的な見方・考え方を働かせて、コンピュータのしくみとコンピュータでの情報の内部表現、計算に関する限界などを理解し、アルゴリズムを表現しプログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークの機能を使う技能を身に付けるようにし、モデル化やシミュレーションなどの目的に応じてコンピュータの能力を引き出す力を養うことができる。 ・単元テスト　・ワークシート ・実習課題	探究心
後期	10／11	・第3編　コンピュータとプログラミング 第2章　プログラミング	13			課題解決能力
	12	・第3編　コンピュータとプログラミング 第3章　モデル化とシミュレーション	3			分析・判断力
	1／2	・第4編　情報通信ネットワークとデータの活用 第1章　ネットワークのしくみ 第2章　データベース	12		情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用する活動を通して情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報通信ネットワークや情報システムのしくみを理解するとともに、データを蓄積、管理、提供する方法、データを収集、整理、分析する方法、情報セキュリティを確保する方法を身に付けるようにし、目的に応じて情報通信ネットワークや情報システムより提供されるサービスを安全かつ効率的に活用する力やデータの問題の発見・解決に活用する力を養うことができる。 ・単元テスト　・ワークシート ・グループ活動	情報活用能力
	3	・第4編　情報通信ネットワークとデータの活用 第3章　データの活用	7			情報活用能力